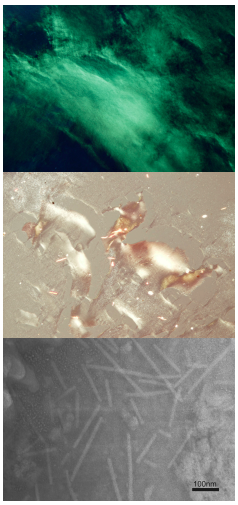
牛アミロイドの熱処理による性状の変化

研究分担者：帯広畜産大学家畜病理学教室　松井高峯

表1

	組織切片					塗沫標本（精製アミロイド）			
	CR	CR蛍光	ThT	抗SAA	EM	CR	CR蛍光	ThT	EM
無処理	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋
105℃	＋	＋	＋	＋	＋	±	±	±	＋
121℃	－	－	－	＋	＋	－	±	－	＋
132℃	－	－	－	＋	＋	－	±	－	＋

図1



2

3

表2

	アミロイド	投与量	沈着マウス		沈着量
無処理	ウシ由来	100μg	0/5	1/11	1＋
		500μg	1/6		
105℃		100μg	2/5	2/9	2＋
		500μg	0/4		
121℃		100μg	0/5	1/9	2＋
		500μg	1/4		
132℃		100μg	0/5	0/10	
		500μg	0/5		
コントロール	マウス由来	100μg	4/4		1＋～2＋

- 表1　熱処理による牛アミロイドの性状変化
  CR：コンゴーレッド染色　ThT：チオフラビン染色　EM：電子顕微鏡像　抗SAA：免疫染色
- 表2　熱処理アミロイドのマウスへの伝播試験
- 図1　精製アミロイド（無処理）のコンゴーレッド染色後の偏光像
  2　121℃処理後の精製アミロイドのコンゴーレッド染色後の偏光像
  3　精製アミロイド（無処理）の電顕像

結論　121℃の熱処理で染色性の減退が認められるが、121℃の熱処理後のアミロイドにも伝播　性は認められた。